

図表5-1-5 ▶再編後の研究開発体制の変遷



出所：NTT『NTT-この10年 [2005-2014]』（2015年4月）

図表5-1-6 ▶国内と海外基礎研究拠点の連携



出所：NTT『アニュアルレポート2019』

グローバル研究体制の構築と次世代技術への取り組み

基盤技術の発展と並行して、研究開発体制も強化された。

1990年代半ば、NTTは米国カリフォルニア州シリコンバレーに研究拠点・プロジェクトを展開し、現地の学術・産業コミュニティと連携した先端研究を推進した。その後、2013年に「NTT Innovation Institute, Inc. (NTT i³)」を設立。セキュリティ・クラウド分野における研究開発に従事した。こうした米国拠点での研究を礎に、2019年4月、グローバル市場での競争力強化を目的として、「NTT Research, Inc.」を設立した。ここでは、イノベーション

の源泉となる次世代技術に関する基礎研究が進められている(図表5-1-6)。

同社は3つの研究所を擁し、国内の研究拠点とも連携しながら、量子計算、暗号技術、バイオなどの最先端分野に注力している。中でも量子コンピューティングに関しては、量子理論の基礎研究から実用化を視野に入れた開発まで手掛けており、安全・安心な情報社会の構築に向けた技術として位置付けている。

一方、国内では革新的な環境エネルギー技術の創出を目的として、2020年7月に「宇宙環境エネルギー研究所」が